

1月の道内景況 情報連絡員レポート

各地がインバウンドで賑わうも、地元客の財布の紐は固く、収益状況は悪化。

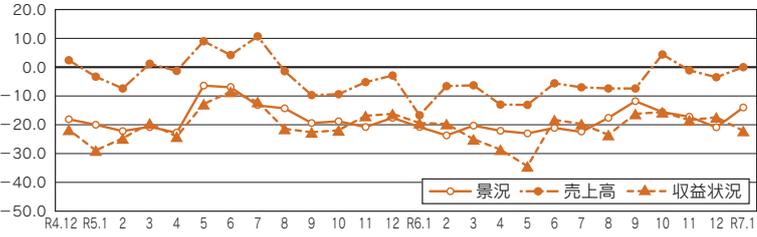
概況

前年同月との比較では、「景況」「売上高」は増加したが、「収益状況」は減少した。

12月から1月の推移では、「景況」「売上高」は増加したものの、「収益状況」は減少している。

情報連絡員によると、製造業では、原材料・エネルギー価格等の高止まりや価格転嫁の状況から、売上高・売上個数が増加しても、収益は悪化しているとの声のほか、人手不足や後継者問題などの課題についても声が寄せられた。非製造業では、冬の観光シーズンが本格的に始まり、外国人観光客が各地で増加しているものの、地元、道内の客足は鈍く、物価高騰から家計に影響する商品が値上がりし、節約志向が高まったことで売上が上がらないほか、年始は、全国チェーン店や大型店に客が集中しているとの声があった。また、雇用人員不足による新たな事業獲得が難しいとの報告があった。

主要 DI の推移



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比
業界の景況	☀️ △20.9	☀️ △14.0	↗️ 6.9	☀️ △25.0	☀️ △24.1	↗️ 0.9	☀️ △19.0	☁️ △8.8	↗️ 10.2
売上高	☁️ △3.5	☁️ 0.0	↗️ 3.5	☁️ 0.0	☀️ △10.3	↘️ 10.3	☁️ △5.2	☁️ 5.3	↗️ 10.5
収益状況	☀️ △17.4	☀️ △22.1	↘️ △4.7	☁️ △7.0	☀️ △24.0	↘️ △17.0	☀️ △22.4	☀️ △21.1	↗️ 1.3

(凡例) 30以上 ☀️ 10~29 ☁️ 9~10 ☁️ 11~29 ☀️ 30以下 ☁️

	全業種			製造業			非製造業		
	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比	12月	1月	前月比
販売価格	☀️ 30.2	☀️ 29.1	↘️ △1.1	☀️ 25.0	☀️ 20.7	↘️ △4.3	☀️ 32.8	☀️ 33.3	↗️ 0.5
取引条件	☁️ △5.8	☁️ △7.0	↘️ △1.2	☁️ 3.6	☁️ 3.4	↘️ △0.2	☀️ △10.3	☀️ △12.3	↘️ △2.0
資金繰り	☁️ △2.3	☁️ △7.0	↘️ △4.7	☁️ 3.6	☀️ △10.3	↘️ △13.9	☁️ △5.2	☁️ △5.3	↘️ △0.1
雇用人員	☀️ △17.4	☀️ △16.3	↗️ 1.1	☁️ △7.1	☀️ △13.8	↘️ △6.7	☀️ △22.4	☀️ △17.5	↗️ 4.9

天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(DI)をもとに作成。天気表示は凡例のとおりです。

製造業

食料品

- 組合員の中には公取の指示により価格転嫁ができ、業況が好転した企業や、インバウンドをとらえ業績が良い企業もみられる。ただ、原材料及び光熱費などの経費は多く、企業によりムラがある。
 - ・最終消費を増やす政策に取り組んでもらいたい。石油等の高騰は、消費を明らかに圧迫している。(小樽)
- 組合員の主力加工品であるホタテは前年度より若干数量、金額が減少したものの、安定した業績となっている。
 - ・沖底漁は数量が増加したものの、金額は減少している(スケソウダラなどすり身原料となる魚の漁獲減少、買入価格の低下が要因)。
 - ・秋鮭加工は北海道全体で不漁のため、価格が高騰し、原料コスト高となった。いくら、すじこ等の商品の顧客離れを危惧している。
 - ・1月は沖底漁も荒天が続き、出漁できない日が多かった。1月28日から3月11日まで、ルールにより休漁期間となっている。
 - ・組合員は人員不足、後継者問題、温暖化の影響による魚種交替等、課題を抱えている。(網走)
- 年末はほぼすべての食品が昨年より高騰している中、種類は年末に値上げすることができず現状維持。原材料、光熱費、物流費、人件費の高騰により売上高・売上個数が増加しても収益は悪化している。(全道)
- 味噌出荷量(道内)：単月(令和6年12月)前年対比 89.5%
 - 累計(令和6年1月~12月)前年対比 96.1%
- 醤油出荷量(道内)：単月(令和6年12月)前年対比 104.4%
 - 累計(令和6年1月~12月)前年対比 95.7%
- 味噌出荷量(全国)：累計(令和6年1月~11月)前年対比 97.4%
- 醤油出荷量(全国)：累計(令和6年1月~11月)前年対比 99.9%
 - ・令和6年12月の道内単月の出荷量は、味噌が悪く、醤油は良かった。
 - ・令和6年1月~12月の道内累計出荷量は味噌・醤油ともに前年割れ。
 - ・北海道の場合、全国平均と比較しても、出荷量が悪くなっている。
 - ・原料米価格の高止まりで、味噌業界は苦慮している。(全道)

窯業・土石製品

- 1月の生コン出荷量はおよそ157千m³。(前年同月比100.1%)
 - ・地域別には、前年同月を上回った分会は27分会中、18分会で前年(増加は8分会)を上回った。前年同月と比較して増加したのは道南、小樽、日高など。一方、減少したのは千歳、札幌、後志などであった。
- 道央地域では、新幹線工事や再開発事業等により一定の需要はあるが、その他の地域では、公共・民間需要の落ち込みから、砂利の売上や利益が減少しており、在庫は増加している。(全道)

鉄鋼・金属

- 鋳物製品は総じて悪い。自動車向けは国内販売台数の減少により微減。上下水道向けは若干悪い。建設向けは減少。(全道)
- 国内造船所は新造船受注が昨年引き続き、船舶を取り巻く環境は良さそうだが、24年度の業績は計画を大きく上回る見込みで予想される。将来の新造船燃料実用化に向けたアンモニア燃料の輸送船の着工も進み、環境に優しい水素船

の開発開発も進められている。人手不足の課題はあるが、仕事量が確保され、見通しは明るい。(室蘭)

一般機器

- 原材料・エネルギー価格高騰分や従業員の賃上げ分など、価格転嫁がほとんど出来ていないとの声が多い。
 - ・中小企業が適正な価格転嫁を確実にできるように、国から大企業や発注企業に対する具体的な対策が必要。物価高騰対策・景気対策の早期実施。景気対策として給付金や所得税消費税減税の実施(中低所得者主体)。電気料金やガソリン・灯油等の補助金額や期間拡大実施。送電線増強と再生可能エネルギー事業の推進加速。(札幌)
- 景況は依然として厳しい状況が続いている。特に今月は前年同月と比較して受注量の減少が影響し、全体的に低調となっている。(帯広)
- 資材価格の上昇に加え、防災用の薬剤がほぼ中国からの輸入に頼っており、輸出規制によりさらなる価格上昇が見込まれる。
 - ・冬期間が屋外の作業が減り、売上も減少するが、先の仕事の問い合わせは少々来ている。
 - ・インバウンドは増えているが、中々仕事に結びついていない。
 - ・レアメタル等海外依存度の高いものの安定供給、輸入の健全化が必要。(全道)

その他

- 1月のトドマツ原木の工場への入荷は、前月同様落ち着いた。市況については在庫が不足している状況になく、弱保合で推移している。国有林材のトドマツ一般材については、オホーツク、道央圏、道北では複数の応札があり、この時期は例年、荷動きが活発化する。道南スギ、カラマツについては、全く荷動きがなかったが、カラマツ原木については、東京の商社が韓国向けに函館港から輸出をしており、今後、苫小牧港の積み荷場所の空き状況によっては、札幌圏のカラマツも購入意欲を示している。また、木質バイオマス原料については、順調に集荷されており、価格も高止まりの傾向から、下がり気味で推移している。
- トドマツ製材市況は、先月に引き続き景気後退等の影響により、新規住宅需要が前月に比べ減少しており、回復することは不可能に近く、建築用材については、絶不調に陥っており、土木資材については多少の動きがある。価格は弱気配~保合の状況にあり、カラマツラミナについても、減少傾向で推移しており、市況はカラマツ、エゾ・トドマツは弱含みが見込まれる。なお、本州のスギが市況に入り込み、道内の市況を圧迫しつつあり業界内では脅威に感じている。紙原料は、不足気味で原料米価格が上昇していたが、全体的に下降気味である。(全道)
- 段ボールも紙器も速報値によると3年連続の前年割れのようなだ。段ボールは値上げの真ただ中であり、一般ケースはほぼ見通しが立ち、青果物もこれからの交渉ではあるが指標となる価格交渉が決着したようである。業績の改善に期待が持てそうである。(全道)

非製造業

卸売業

- 降雪量が少なく季節商品は紳士靴、生活雑貨、除雪用品等が売上を落とした。一方で事務用機器、空調機器等は順調で全体的には増収との回答が減収を上回った。雇用人員は減少傾向が続いており人手不足が課題となっている。(札幌)

- 1～3月の道内製紙工場の生産計画では前年比99%の見込みだが、新聞の生産については前年比20%のマイナスとなっている。古紙回収業者は燃料価格の高止まりで収益が悪化傾向である。
・燃料高の対策を早急にしてほしい。(全道)
- 令和7年1月の当組合買付高は仲卸、荷受1,507,663千円(税抜)で、先月の12月実績額1,860,085千円(税抜)より352,422千円ほど減少した。1月は正月休みのため開市日数が少ないことに加え、2月の雪まつりまでまだ日数があるため観光需要の喚起にはつながらないことが遠因。今後、アジアからの観光需要が大きくなり、春節の影響もあるために、需要が伸びそうではあるが、2月初旬の大寒波によって生産地の作物が被害を受けており、収益は確保できない懸念がある。
・原料高の影響がどの程度企業業績に影響をきたすのかの業界データがほしい。(道央)
- 全国的に高圧ケーブルの需要が高く、商品の搬入に30日以上納期がかかる。(全道)

小売業

- 前年比較 物販92.2%、金融98.9%
・冬の観光目的の外国人観光客が多く訪れ、中心市街地の人通りが増えていた。ラーメン店は常に行列ができ、動物園のバスは満員で臨時便が運航されるほど観光施設や飲食店は賑わっている。地元市民の売上では、今年は暦の関係で例年より仕事始めが2日遅いのと、食品スーパーも3日から営業を開始するなど、買物客の出足が鈍く前年より減少した。業種別では、家電が80%、衣料品88%と前年より大きく割り込み、燃料は単価が上がっても暖冬で需要が伸びず84%であった。収益では、借入金利の上昇で更に厳しさを増している。(旭川)
- 会議所が12月の大型店とスーパーの売り上げ状況を発表した。合計では前年同月比0.8%増で、大型店は前年同月比24.7%減だったが、スーパーは大きく売上を伸ばし、前年同月比10.5%増となった。価格が安いプライベートブランド商品が充実している店舗の需要が高まっている。(苫小牧)
- 販売価格を上げる加盟店が増えてきてはいるが、物価の高騰も続いていることから、適正価格での販売が出来ず、利益を圧迫している。何度も価格転嫁を行うと客離れが進むことも懸念され、葛藤に苦しむ加盟店が多い。(日高)
- 1月は天候に恵まれ、積雪が少なかつたにもかかわらず、買い物客が少なかつた。特売日でも、午前8時から正午の間、1時間に20～30人ほどと平日のような客入りであった。当日は吹雪だったが、カニを食べるためにインバウンド客が訪れた。(小樽)
- 人口減少や節約のため、販売数量が落ちている。仕入価格も上がってきており、厳しい経営状況が続いている。(稚内)
- 1月は全体的に取扱い減との声が多かつた。小売業については大みそかからの雪の影響もあり期待していた初売も期待通りとはいかず、中にはお正月ムードもなく通常と変わらぬ営業をしている店舗もあつた。食品スーパーや大型家電店、全国チェーンのディスカウントストアといったところだけが賑わっていたように思われる。酒類卸売販売の組合員店は新年会も盛んであつたようで忙しかつたとのこと。燃料販売店においては、価格高騰に加え暖冬による灯油の配送も減少した。
・旅行業は、個人旅行が減少したものの新規開拓による企業との出張や団体旅行の受注があるなど法人開拓に力を入れているところ。携帯電話販売業については、年明けから来店数も多いものの人気機種完売から販売台数は前年比マイナス、電気やカードといった各種商材の獲得に注力し目標をクリア、保険業は、既存顧客への新規提案や企業訪問での提案書作成など成約に向け鋭意活動中。(釧路)
- 年明け以降、日に日に中華圏からのインバウンド観光客が多くなつてきている。また、2月には中国の正月に当たる春節もあり、今年は中国本土からの動きもあるようだ。引き続き、台湾・香港・シンガポール・マレーシアなどの東南アジアのインバウンド入込はコロナ禍前以上の水準のようで、さらに期待が高まる。(函館)
- 1月は例年客足が遠のき売上が激減する。今年は特に食品やガソリン代など家計に直撃する商品の値段が上がり、売上が悪くなつた。売上も真ダラ、にしん、カレイは多いが全般に高価である。
・ガソリン代金の補助が必要。(札幌)
- 売上は前年比100.4%。昨年より売値が上がっているが、販売数量が若干落ちている。(札幌)
- 1月は閑散期だが、インバウンドの入店客が昨年より伸びてきている。1月24、25日に和商の日を開催し、地元のお客様の入店が多かつた。市場のパン屋も好調で、韓国で話題の「クルンジ」を販売したところ、昼過ぎで完売するほどの人気であつた。最近の傾向として、市民サービスの催事出店が賑わいをみせている。(釧路)
- AV不振のため、売上は少し減少している。特に、最近ではEC取引の売上が50%近くになり、商品の売上が悪くなりつつある。(全道)
- 4月に機械代値上がりが予定されており、物価高騰が気になる。(全道)

商店街

- 網走市から発表された12月の観光入込数は、道内旅行者を中心に道外や海外からの観光客が活発に動き、宿泊、拝観施設とも前年度を上回つた。中心市街地周辺の5つのホテル施設は18.7%増、外国人は20.2%増の5,013人の宿泊があつたと報告されたが、当商店街への波及効果は限定的であつた。
・エネルギー、物価高騰に対する対策強化を強く求める。(網走)
- 1月共通駐車券の利用は、前年同月比164.6%。買物共通バス券は、前年同月比122.2%。共通駐車券は、前年比利用増の傾向を維持。(帯広)
- お正月商戦に始まり、これから本格的な冬の観光シーズンに入るため、インバウンドや国内からの観光客に期待したい。都心部商店街は、マレーシア、インドネシア、タイといった東南アジア諸国からの来街者が増加しており、今後雪まつりを前に始まった春節シーズンでは中国からの来街者が今年は大きく伸びると予想されている。一方で、原材料価格、エネルギー価格をはじめとする物価高の傾向は続き、今後の収益に大きく影響する懸念がある。さらに物価高に伴う家計の節約志向の広がりにより市民向けの小売りは悪化しており、販売価格の上昇が売上高の上昇にはつながらない。実質賃金のマイナスが続いて

いる状況の中では、当面悲観的な要素の方が大きい。(札幌)

サービス業

- 地質調査関連の受注契約総額は、4月からの累計では、前年度に比べて10%程度増加しているが、前年同月比で数%程度減少している。加えて燃料費、消耗品、材料費が上昇しているため、収益も次第に悪化している。更に金利の上昇により資金繰りにも影響が出始めている。また、発注官庁とは来年度に向けて毎年意見交換会を開催しており、業界の発展や社会的地位などに繋がるテーマに沿って協議を行っている。(全道)
- 季節がら燃料の消費増に加え1月からまた4円の重油値上げ。光熱費等の消費は増大の予想であり、また消耗品等営業に係る経費が依然として大きく営業状況は厳しい。(全道)
- 技術人材不足を充足する手段として、自社の定年社員の再雇用だけでなく、他社で定年を迎えた技術系のシニア人材を採用する道内中小IT企業が増えてきている。シニア人材は出世欲よりも働くことに意義を求め傾向が強く、収入さえある程度確保できればモチベーションも上がる。企業側も勤務時間や勤務日数の調整や設備等の働く環境を整えることが必要だが、環境の整備は既存社員にも好影響を与えることから企業全体の活性化につながる。ただ、採用時に既存社員や企業内風土との相性を見極めることが大事で、目線を落として既存社員と柔軟に対応できるシニア人材を採用している。さらに、「2025年の崖」と呼ばれる現状の基幹システムのサポート終了に伴い、コスト削減や業務改善を目的にクラウドサービスへの移行を求めている顧客が増加しているが、切り替えに必要なCOBOL等の知識を理解できる社員が少ないことからシニア人材が重宝され、収益に貢献すると期待されている。今後も豊富な経験や技術スキルを若手の育成に生かすだけでなく、人材不足を補うために、ハローワークや人材紹介会社を通じて定年後の技術系シニア人材を積極的に採用する道内中小IT企業が顕著に増加しそうだ。(全道)
- 3か月ぶりに前年実績を上回る入込。道外及び海外客の増加によるものであり、道内客の入込は減少傾向が続いている。(十勝)

建設業

- 原材料費の増加は落ち着いた兆しも伺われるが、今後の推移を注視する必要がある。また、人件費の増加は続いており、収益への影響が生じているほか、雇人員不足による事業への影響も出ており、新たな事業獲得が難しい。4月からの働き方改革の対応に苦慮している。(札幌)
- 官庁工事については、冬場は入札案件が少ないが、不調の状況は相変わらずで、電気工事では目立たないが、設備工事と工事監理においてかなり顕著になってきている。札幌市については、次年度発注予定案件の計画が出てきつつあるが、設備設計の人材不足により実質設計が間に合わず、先送りになる案件も多いと懸念している。札幌市立学校約300校のエアコン工事について、今年度100校が発注済みで、残りのうち約180校がPFI方式で、埼玉県の業者が代表者のグループが選定され、逆に、地場企業に仕事が回ってこないのではと想像している。北海道庁発注工事はそれほど変化はない。防衛施設局が予算倍増し、発注単価が改善されたことと、設計会社は札幌市より防衛局案件にシフトしている様子。電気工事は、防衛局の工事にまだまだ取り組みにくい。
・民間工事では、引き続き戸建住宅やマンション工事の発注は低調だが、千歳、北広島方面のホテル、工場、倉庫、商業施設等の計画や発注は旺盛である。再開発関係やインバウンド対策のホテルなど、札幌中心部も設備投資は多い。
- 価格転嫁について、やはり人材不足、業者不足もあって、少しずつ改善されつつある。
・働き方改革について、官庁工事は週休2日型の導入が本格化してきたが、民間現場の工事でも少しずつではあるが改善しつつある。ゼネコン業界でも土曜日閉所の動きはわずかず進展しつつある。年度末の繁忙期に向けては、人員の稼働状況は引き続き注視が必要と思う。
・人材難による外国人の活用について、電気工事分野は、電気工事士資格を取得することの難しさから、ほぼ難しいと思つたが、今後は半導体分野に人材が大幅にシフトしてしまうことが予想され、やはり外国人も考える必要が出てきた。まずは電気工事資格を、英語、中国語、ベトナム語、インドネシア語、マレー語などの外国語でも受験できるよう改善いただきたい。北海道も土木工業業では外国人活用が増えてきたが、人材あせん業者の中間搾取の問題など、改善すべき課題も多いと思うので、引き続き環境整備をお願いしたい。(全道)
- 今年の年明けは、降雪も少なく比較的穏やかな日々が続いているが、逆に気温が下がる日が多く水道凍結や排水の凍結による解氷依頼があり、組合員もその対応に追われている。地域の実情としては、小・中・高の新学期が始まり、通学路の除排雪作業が急ピッチで行われていた。幸いなことに今年は、年前から排雪作業が行われ順調に推移しているが、除排雪を請け負っている組合員は、作業に追われる毎日で忙しい日々が続いている。また、2月初旬には、名寄市の冬の一大行事「雪質日本一フェスティバル」が開催されることから、その準備に追われている。(名寄)

運輸業

- 今年に入ってもインバウンド客が増加、バス業界は忙しいようだ。(小樽)
- スーパー向け食料品等は例年通りに動いているが、外注するトラックが見つからない。
・関東向け農産物のトラック輸送は、荷主が2024年問題対策で輸送方法を切り替えたことにより減少したが、関西向けは増えている。
・全般的に降雪量が少ないため、トラックの運転時間の短縮になっている。
・降雪量が少ないため、重機や排雪ダンプに使う軽油の輸送量が減っている。
・この時期は、食料品や日用品等を除く輸送量は少ない。(全道)
- 農産物については、例年並みの荷動き。一般カーゴも例年並み。次世代半導体工場関連の貨物は1月に入り少し落ちている。少雪の影響で除排雪に使用されるダンプの稼働が悪かつた。(石狩)
- 売上高は、前年同月比(12月)3.84%減少
・乗務員数は、前年同月比(1月)3.5%減少
・12月分チケット取扱高は、前年同月比1.29%増加(旭川)